

2. 「大都市圏地殻構造調査研究計画」の経緯と目的

東京大学地震研究所 平田直

(1) 「大都市圏地殻構造調査研究計画」とは？

大都市大震災軽減化特別プロジェクト（略称、「大大特」）のうちのひとつとして、「**大都市圏地殻構造調査計画**」が実施される。「大大特」は、平成14年度から始まる、「新世紀重点研究創生プラン（RR2002）」のうちのひとつで、防災分野（都市再生プログラム）の研究計画として実施される。RR2002全体としては、以下のような計画がある。

- ① ライフサイエンス分野（ライフサイエンスプログラム）
 - ・ タンパク3000プロジェクト、・ ナショナル・バイオリソース・、プロジェクト・21世紀型革新的先端ライフサイエンス技術開発プロジェクト
- ② 情報通信分野（ITプログラム）
 - ・ 世界最先端IT国家実現重点研究開発プロジェクト、・ 「eサイエンス」実現プロジェクト
- ③ 環境分野（環境プログラム）
 - ・ 人・自然・地球共生プロジェクト
- ④ ナノテクノロジー・材料分野（ナノテクノロジー・材料プログラム）
 - ・ ナノテクノロジー総合支援プロジェクト
- ⑤ 防災分野（都市再生プログラム）
 - ・ 大都市大震災軽減化特別プロジェクト

「大大特」のうち、「**大都市圏地殻構造調査計画**」では、「**地震動（強い揺れ）の予測**」を目指した研究を行う。

(2) 「大都市大震災軽減化特別プロジェクト」の目的と、実施する研究項目

首都圏（南関東）や京阪神などの大都市圏において阪神大震災級の被害をもたらす大地震が発生した際に人的・物的被害を半減化できることを目指して、研究開発等を行い、地震防災対策に関する科学的・技術的基盤を確立することを目的とする。次の、4つの項目を研究する。

（1）強震動（強い揺れ）の予測、（2）耐震性の向上、（3）災害対応戦略最適化研究（4）統合化研究。このうち、「**大都市大震災軽減化特別プロジェクト**」は、（1）に対応している。

(3) 「大都市圏地殻構造調査計画」の目的と、実施する研究項目

地震発生源の特定が難しい関東平野南部などの大都市圏において、阪神大震災級の被害をもたらす大地震を発生させる仕組みを解明するため、大規模な地殻構造の調査研究を行い、これに基づき、地震動予測（長期予測、強震動）の精度を向上させるための断層モデル等を構築する。この研究計画は、「地震調査研究推進本部」の方針（関東・近畿においては、面的な測線での島弧地殻構造調査を行うことが望ましい）に沿って実施され、得られた成果は、地震調査研究推進本部の活動に反映される。このために、①大深度弾性波探査、②大規模ボーリング調査、

③断層モデル等の構築、の3つの項目の研究を実施する。大学を中心に、防災科学技術研究所等が連携して協力して実施する研究である。